1955

昭和30年度活動報告

近畿六大学春季リーグ戦

甲南大近六入り　2位　甲南大学　6勝4敗

第三回西日本大会

◇6月2日佐賀市民球場

関　大	0	1	0	0	1	0	6	9
甲南大	0	0	0	2	0	0	0	2

▽二塁打森田・堀谷・恒次・北森・川合（関）
バッテリー
（関）太田・淵野―入江
（甲）榊原・川森―奥田

〔甲南大〕		打	安	失
④	橋本(博)	2	0	0
PH	木　村	1	1	0
⑤	橋本(正)	4	1	0
⑥	近江(兄)	3	1	1
③	左　雲	4	1	0
⑨	達　富	3	1	0
⑦	中　川	4	1	0
⑧	上田(清)	2	0	0
PH	桑　原	1	0	0
①	榊　原	2	1	0
1	川　森	2	1	0
②	奥　田	4	0	0
	計	32	8	1

〔関　大〕		打	安	失
⑦	堀　谷	4	1	1
8	足　立	1	0	0
⑥	北　森	5	1	0
⑨	恒　次	5	2	0
⑤	熊　岡	1	0	0
③1	淵　野	3	0	0
②	入　江	5	1	0
⑧	川　合	3	1	0
7	宗　野	1	0	0
④	森　田	4	2	0
PH	奈良平	1	0	0
3	田　口	0	0	0
①	太　田	2	1	0
3	藤　井	1	0	0
4	小　芽	1	1	0
	計	37	10	1

戦評

今春のリーグ戦での一・二位のチームの対戦であっただけに一点を争う熱の入った好試合となった。関大が二回二死後から森田の二塁打と太田の安打で一点先取すれば、甲南も四回三安打とスクイズ成功して二点を挙げ逆に一点をリード、しかし関大は五回二本の長打で同点と追いつく接戦だった。甲南の榊原投手はカーブはよかったが、やゝ球速が不足していたため関大打線は七回強く攻めたて、３四球を織込む長短打で榊原を退け、代った川森にも森田が安打してこの回大量六点をあげて大勝した。関大の勝利は打力によるものであり、チャンスは必ずものにする打線は確かに優勝候補らしい重量を備えている。

『随行記』

五月三十日記者は西日本大会に出場する甲南大学準硬式野球部員と共に九州は佐賀へ向って出発すべく車中の人となった。総人数二十四名は各々車中にファイトと野望を秘めてはいるが何か不安な気持に襲われている様だ。しかし流石我が甲南大学野球部員は車中では同乗の近大、関西大ナインらと共に和やかに話し合ったり和気合々たる所をみせていた。主将の高橋博光君は「全員ファイトの権化となりベストを尽して戦うのみ。」と抱負を語った。約十四時間汽車にゆられて、明けて六月一日午前十一時二十分目的地に到着した。地元の歓迎振りは想像以上でまず駅頭へ出迎えのうら若い二人の女性ににによって宿舎に案内された。街の所々には“祝西日本大学野球大会”の貼紙がはられ商店街には紙旗、堤灯がつりさげられまさに街中挙げての歓迎ぶりであった。又当日夜には大会前夜祭として佐賀市民館で催された大ダンスパーティには我甲南ナインは長い車中の疲労の為出席できなかった事は誠に残念であった。明けて二日午前八時半入場式が行われ高松宮殿下の御臨席をあおぎ精鋭十六校は三千余の観客の拍手の下に地元高校生ブラスバンドにのって堂々と入場した。遠く異郷の地佐賀に於て我校野球部ナインの勇姿を見る時まさに万感胸にせまるものがあった。高松宮殿下、佐賀県知事、市長らの祝辞があって入場式を終り関学対松山商大の一戦によって大会の幕は切って落された。我校の試合は大会第二日目の第三試合で優勝候補の筆頭関西大との対戦である。これに備えて午後から佐賀大グランドに於て練習を行い夜にはマネジャーの北山君得意のウクレレを聞きながら同宿の立命大をまじえて和かに慰労会を催した。明けて三日気ずかわれた天気もなんとか持ちこたえ午後四時半甲南大対関西大の一戦が開始された。（ここで記者は甲南に勝利の栄が輝く様にと心に祈らずにはいられなかった。）

◎〔甲南大学新聞昭和三十年六月十八日号より〕

近畿六大学秋季リーグ戦

◇10月17日

甲南大	1	0	0	0	0	0	0	1
神外大	0	0	2	0	0	0	0	2×

▽二塁打佐久間（甲）・樽谷・宮本（外）
バッテリー
（甲）榊原―佐久間
（外）林―宮崎

◇10月21日

大経大	0	0	1	1	0	0	4	6
甲南大	0	0	0	0	0	0	0	0

（甲南大）29　5　6
　　打　安　失
（大経大）37　6　1

▽三塁打近江（弟）（甲）▽二塁打藤原（寛）（経）
バッテリー
（経）竹下・大末―三浦・阪部
（甲）榊原・中川―佐久間

◇10月24日

甲南大	3	0	0	0	0	3	0	6
和　大	1	0	0	0	0	0	0	1

（甲南大）36　8　2
　　打　安　失
（和　大）24　3　3

▽二塁打達富・木村・近江（弟）②（甲）
バッテリー
（甲）中川―佐久間
（和）山野・鈴木・西田―弓場・山野

◇10月25日

和　大	0	0	3	1	2	0	0	0	6
甲南大	0	1	1	1	0	0	3	0	0	5

（和　大）34　6　3
　　打　安　失
（甲南大）33　7　3

▽三塁打佐久間（甲）
▽二塁打梶本②・近江（弟）（甲）
バッテリー
（和）西田―弓場・山野
（甲）中川・榊原―佐久間

◇10月27日

甲南大	0	1	1	0	0	4	0	0	6
神商大	0	1	0	0	0	1	1	0	0	3

（甲南大）39　12　5
　　打　安　失
（神商大）28　8　5

▽二塁打中川・木村（甲）
バッテリー
（甲）中川・榊原―佐久間
（商）佐々木・荒木―脇谷・吉川・金子

◇10月28日

神商大	0	1	0	1	0	0	0	2
甲南大	0	0	0	0	1	0	0	1

（神商大）21　1　6
　　打　安　失
（甲南大）28　6　0

▽二塁打野沢（商）・梶木（甲）
バッテリー
（商）荒木―吉川
（甲）川森・中川―佐久間
（雨天コールドゲーム）

◇10月31日

近　大	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
甲南大	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0

（近　大）39　8　1
　　打　安　失
（甲南大）39　3　0

▽二塁打三隅・吉田（近）・中川・榊原（甲）
バッテリー
（近）吉田―岩瀬・近藤
（甲）榊原―佐久間
※延長12回引き分け

◇11月1日

甲南大	0	0	0	0	0	0	0	0	0
近　大	0	0	2	1	0	1	0	0	4×

（甲南大）29　1　2
　　打　安　失
（近　大）30　6　2

▽二塁打山口・野口（近）
バッテリー
（甲）榊原・中川―佐久間
（近）吉田―岩瀬

◇11月4日

神外大	0 0 2	0 0 0	4 0 0	6
甲南大	0 0 0	0 0 0	0 0 0	0

(神外大) 37 10 2
打 安 失
(甲南大) 29 2 2

▽二塁打樽谷(外)・達富(甲)
バッテリー
(外)宇野林―吉岡
(甲)中川・佐々木―佐久間・梶

◇11月7日

甲南大	0 0 0	0 3 2	0 0 0	5
大経大	0 1 0	0 0 2	0 0 0	3

(甲南大) 37 9 1
打 安 失
(大経大) 34 7 4

▽二塁打梶本・佐久間(甲)・藤原弟・木村(経)
バッテリー
(甲)中川・榊原―佐久間
(経)高岡・竹下―三浦

秋季リーグ戦成績表

	近大	大経大	神外大	和大	甲南大	神商大	試合数	勝数	引分
1.近　大	●	1△	1	2	1△	2	10	7	2
2.大経大	0△	●	2	1	1	2	10	6	1
3.神外大	1	0	●	1	2	2	10	6	0
4.和　大	0	1	1	●	1	2	10	5	0
5.甲南大	0△	1	0	1	●	1	10	3	1
6.神商大	0	0	0	0	1	●	10	1	0
敗　数	1	3	4	5	6	9			

〔表彰選手〕
最高殊勲選手　安原鮮雄（近）
最優秀選手　吉田寿夫（近）
敢　斗　賞　竹下隆夫（経）
首位打者賞　野口典男（近）

打撃十傑（打数二七以上）

	打	安	打率
1. 野口　典男(近　大)	42	15	0.357
2. 浜田　顕広(〃)	32	11	0.343
3. 吉岡　正博(〃)	33	11	0.333
4. 梶本　善夫(甲　南)	40	13	0.325
5. 岩井　邦雄(神外大)	31	10	0.322
6. 樽谷　史郎(〃)	34	10	0.294
7. 三隅　　建(近　大)	35	10	0.286
8. 木村　　栄(大経大)	36	10	0.278
8. 岩瀬日出夫(近　大)	36	10	0.278
10. 木村　明夫(神商大)	34	9	0.264

第六回学習院定期戦

◇甲南大グランド

学習院	0 0 1	2 0 0	0 3 1	7
甲南大	0 0 0	0 0 3	0 0 0	3

▽本塁打橋本正(甲)
(学) 島村 (甲)榊原

奥田氏を偲ぶ（甲球　部創立十五年記念号より）

私に奥田氏の事に付いて書けとのことで当時の彼の性格、プレーのエピソード等彼に代って書いて見ようと思う。奥田氏のデビューは奈良での全日本大会であった。それ以後彼は部員の中で一番の人気者でもあった。彼は非常なユーモアーの持主で落語や万才の様な事を言ってはいつも人を笑わせていた。試合に負けて皆気落ちしている時など一人面白い事をいっては皆を元気づけていた。そんな訳で皆も彼に一番親しみを持っていたのではなかろうか。又一見こわそうであったが気の優しい面も持っていた。プレーヤーとしては捕手としてチームを引っぱり打撃も渋い当りをしばしば飛しチャンスメーカーとなっていた。この写真は学習院との定期戦の時の名捕手奥田氏のありし日の姿である。学習院で思い出したが彼についてのエピソードがある。定期戦の後で中央大学とのオープン戦をした。その時主将の橋本氏が一塁にスライディングした。その時中央大の選手が橋本氏になぐりかかった。それを見た彼は、一番先に飛び出して相手をあべこべになぐって来た。

又こんなこともあった。我が部がコンパをしてその後で隣りの店でコンパをしていた関学馬術部の部員と些細なことからケンカを始めた。ケンカが大きくなり警官がやって来た。気が付いてみると張本人の彼がいつの間にか居なくなっていた。なんと彼の逃げ足の速いこと・・・こんな愉快な彼だったが、彼が死んでからはや三年になる。私には彼が甲南大学野球部の中に生き続けるものと信じている。

（第三回卒）北山　邦太郎